

**製品名: TTR(1D7)マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM19411**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ICC/IF 1:50-1:200
分子量	16kDa

**抗原情報**

遺伝子名	TTR PALB
別名	Transthyretin (ATTR) (Prealbumin) (TBPA)
遺伝子 ID	7276.0
SwissProt ID	P02766
免疫原	TTRの組み換えタンパク質

**背景**

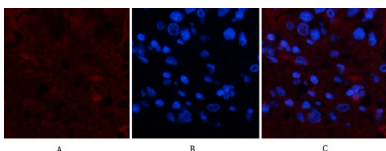
この遺伝子は、 $\alpha$ 1-アンチトリプシン、トランスサイレチン、オロソムコイドを含む3つのプレアルブミンの1つであるトランスサイレチンをコードします。トランスサイレチンはキャリアタンパク質であり、血漿および脳脊髄液中で甲状腺ホルモンを輸送するだけ

でなく、血漿中でレチノール (ビタミン A) を輸送します。このタンパク質は、同一のサブユニットからなる四量体で構成されています。この遺伝子には 80 種類以上の変異が報告されており、そのほとんどはアミロイド沈着に関連しており、主に末梢神経および/または心臓に影響を及ぼします。また、遺伝子変異の一部は非アミロイド形成性です。変異によって引き起こされる疾患には、アミロイドーシス多発ニューロパチー、甲状腺機能正常性高甲状腺ホルモン血症、アミロイドーシス硝子体混濁、心筋症、眼瞼髄膜アミロイドーシス、髄膜脳血管アミロイドーシス、手根管症候群などがある。[RefSeq 提供、2009 年 1 月]、疾患: TTR の欠陥は高甲状腺ホルモン血症の原因である [MIM: 176300]。、疾患: TTR の欠陥はアミロイドーシス 1 型 (AMYL1) の原因である [MIM: 176300]。AMYL1 は、トランスサイレチンアミロイド沈着による遺伝性全身性アミロイドーシスである。タンパク質線維は様々な組織に形成され、アミロイド多発神経炎、アミロイドーシス性心筋症、手根管症候群、全身性老人性アミロイドーシスを引き起こす可能性があります。疾患: TTR の欠陥は、アミロイドーシス 7 型 (AMYL7) [MIM:105210]の原因です。AMYL7 は、軟膜アミロイドーシスまたは髄膜脳血管アミロイドーシスとしても知られています。AMYL7 は、遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシスの一種で、主に中枢神経系に病変が出現します。神経病理学的検査では、軟膜血管壁、くも膜軟膜、および軟膜下沈着物にアミロイドが認められます。一部の患者では、硝子体アミロイド沈着を呈し、視力障害 (眼軟膜アミロイドーシス) を引き起こすこともあります。臨床的特徴には、発作、脳卒中様発作、認知症、精神運動機能の低下、硝子体液への様々なアミロイド沈着などがある。軽度の全身性アミロイドーシスが発生することもある。、ドメイン: 各モノマーは 2 つの 4 本鎖  $\beta$  シートを持ち、長楕円体の形状をしている。逆平行  $\beta$  シート相互作用により、モノマーは二量体に結合している。各モノマーからの短いループが主要な二量体間相互作用を形成する。これら 2 対のループは、二量体の対向する凸状  $\beta$  シートを分離し、内部チャンネルを形成する。、機能: 甲状腺ホルモン結合タンパク質。おそらくチロキシンを血流から脳へ輸送する。、その他: 血漿トランスサイレチンの約 40% は、血漿レチノール結合タンパク質 (RBP) と密接なタンパク質間複合体を形成して循環している。RBP との複合体の形成により、レチノールと RBP の結合が安定化され、比較的小さな RBP 分子の糸球体濾過および腎臓での異化が減少する。RBP の結合部位は 2 つ存在することが証明されており、そのうちの 1 つは、トランスサイレチン分子の外表面に位置するイソロイシン 104 を含む領域である可能性がある。、その他: このチャンネルにはチロキシン結合部位が 2 つ存在する。血漿プレアルブミン分子の 1% 未満が通常、チロキシン輸送に関与している。L-チロキシンは、トリヨード-L-チロニンよりも 1 桁強くトランスサイレチンに結合する。チロキシン結合グロブリンは、ヒトにおける甲状腺ホルモンの主要なキャリアタンパク質である。、オンライン情報: トランスサイレチンのエントリー、類似性: トランスサイレチンファミリーに属する。、サブユニット: ホモテトラマー。、組織特異性: 脈絡叢に最も豊富に存在する。肝臓にも存在します。

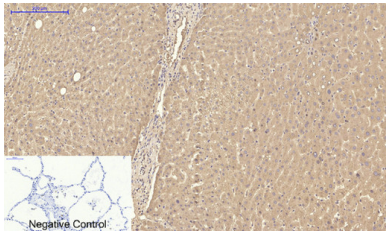
## 研究分野

神経科学

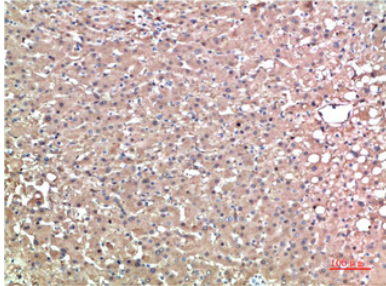
## 画像データ



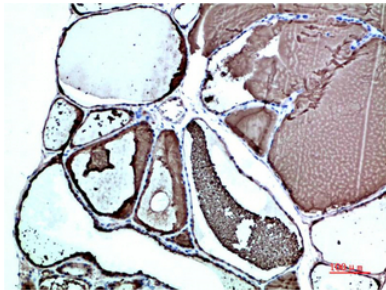
ヒト肝癌組織の免疫蛍光染色。1, TTR マウスモノクローナル抗体 (1D7) (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



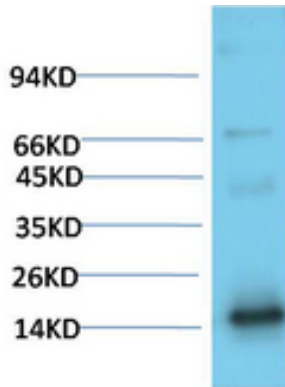
パラフィン包埋ヒト肺組織の免疫組織化学染色。1. TTR マウスモノクローナル抗体 (1D7) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



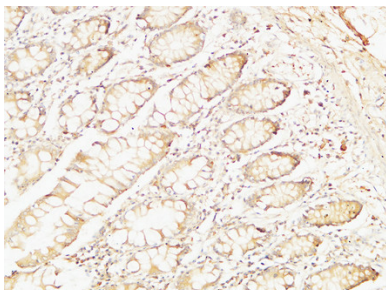
1:200 希釈の TTR マウス mAb を用いたパラフィン包埋ヒト肝癌組織の免疫組織化学分析



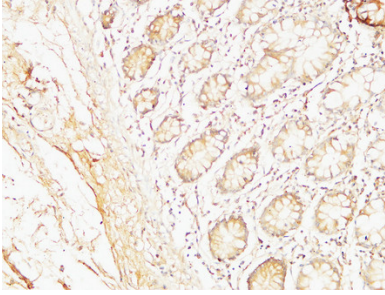
1:200 希釈の TTR マウス mAb を用いたパラフィン包埋ヒト甲状腺組織の免疫組織化学分析



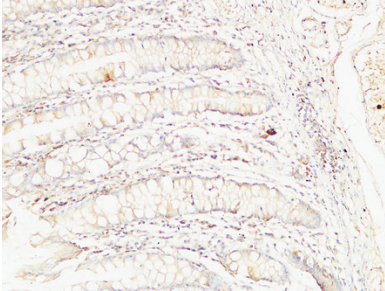
1:2000 に希釈した TTR マウス mAb を用いたヒト血清のウェスタンブロット分析



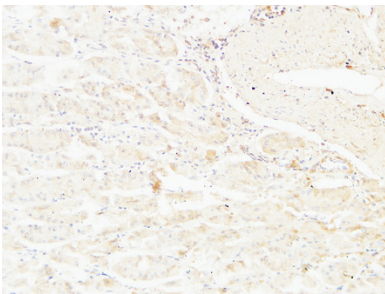
パラフィン包埋ヒト結腸の免疫組織化学分析。1. 抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2. 高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3. 二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト結腸の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト結腸の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。